

佐藤雅幸教授 「スマートテニスセンサー」商品開発に協力

久木留毅教授



直径約3センチ、重さ87グラムのスマートテニスセンサー(「Eネット」スホームページから)



プレイヤーのショットを即時分析



▲ 左から佐藤教授、久木留毅教授、スマートテニスセンサーを装着したラケットで説明するソニーの山下氏

教授は話す。ソニー・システム研究

開発本部のシニアサウンドエンジニア、山下功誠さんは「AV機器で培った音響振動解析技術を使った分析に活用した。技術に自信はあるが、有望な商品なのか判断する貴重なアドバイスをいただいた」と両教授の貢献を語る。オーディオ、ビデオ、ゲーム分野に加え、スポーツ関連商品も柱にしたいと考えた。ヨネックスは同センサーが装着可能なラケットを6機種発売。既存の5機種でも部品交換サービス(2000円、同)を行っている。

テニスのショットを即時に分析するセンサーの開発に、スポーツ研究所長の佐藤雅幸経済学部教授(スポーツ科学論)と同所員の久木留毅文学部教授(スポーツ情報戦略論)が協力、完成した商品が5月31日に全国発売された。産学連携による成果で「日本だけでなく世界のテニス界の発展につなげたい(佐藤教授)と夢が膨らむ。商品は、ソニーの「スマートテニスセンサー」(1万8000円+税別)。

トがボールを捉えた位置やスイングのスピード、打球の初速や回転などを記録。接続したスマートフォンやタブレット端末に無線でデータを飛ばし、1球ごとに解析する。端末に保存された映像と照合させれば、フォームを見ながらショットの確認ができる。直径約3センチ、重さ87グラムで脱着が自在。対応するヨネックス製ラケットのグリップエンドに装着して使う。

「授業で学生に使わせたら『面白い』と歓声がわき、予想以上の反響があった。プロから愛好者まで、さらにコーチにも利用されることは間違いのない。今後も役立つデータを提供していく」と佐藤

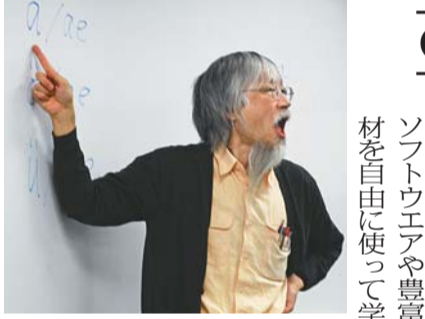


▲ 自習室で



▲ パソコンを使っている授業

コンピューターで語学の達人を目指そう



▲ ドイツ語の発音を説明する寺尾教授

CALL教室のすすめ

外国語学習をサポートするCALL教室(Computer Assisted Language Learning)では、コンピューターの活用によって、耳と口と手足をフル活用しながら効果的に「話す」「聞く」「考える」学習ができる。CALL教室での授業はもちろん、自習室でもオーディオ・ビデオ類、ソフトウェアや豊富な教材を自由に使って学習

ることで、語学スキルの向上が期待できる。各人に適した学習方法を見つけてもらうことが大切だ。寺尾格外国語研究室長(経済学部教授、ドイツ語)は、機器を上手に使うコミュニケーションによって、語学の学習効果を上げることができる。多くの学生に活用してほしい」と呼びかけている。白倉西さん(文学部英語英米文学科3年)と濱野康太さん(同)は授業の合間に同自習室で勉強に励む。二人ともTOEICの点数を上げたという。濱野さんは「英検など『過去問』が置いてあるのがうれしい」と学習効果を話す。



英語 三浦 弘 文学部教授

「三単現のエス」幻想

学生の皆さんは中学や高校の英語の授業から「正しい英語」というものがあるという幻想を抱かされていて、なかなか英語が話せないようです。学校の英語では標準英語の用法を学習するために、三人称単数現在形のエスが必要です。しかし、三単現のエスだけを用いている方言は少数派です。イースト・アングリア方言、アメリカの黒人英語、カリブ英語では、現在形はすべての人称で原形のままです。逆にパークシャー方言では、すべての人称でエスがつきます。スコットランドの伝統料理「ハギス」は、マッシュしたカブとジャガイモと一緒に食べます。写真のハギスはグラスゴーにある有名レストランのもので、羊肉ではなくシカ肉を使ってい



▲ Haggis, neeps & tatties

ます。スコットランドではこの料理を「ハギス・ニープス・アンド・タティーズ」と呼びます。そう、スコットランドではジャガイモはpotatoではなく、tattieなのです。言語は常に変化しています。日本語でもよく用いられるようになった語のアクセントは無くなります(「映画」「音楽」)。5世紀頃の「西ゲルマン語」という言語が、英語やドイツ語に分化しました。言語は使用されることによってコミュニティごとに変化します。その単位は二人から始まります。実は家族や仲間という集団ごとに方言は異なります。ですから、全く同じ言語を話すヒトなど一人もいないのです。ましてや正しい英語などというものはありません。文法ばかりを気にせずに英語を話しましょう。 ※短縮版。全文はCALL教室ホームページで。

公開講座情報

- 人文科学研究所 「第1回公開講演会」
▽日時 6月27日(金)14時~16時
▽場所 生田キャンパス10号館10101教室
▽テーマ 講師 寺尾格(経済学部教授、ドイツ語)
「第2回公開講演会」
▽日時 7月26日(土)14時~16時
▽場所 生田キャンパス10号館10102教室
▽テーマ 講師 「アニメ」
文学部英語英米文学科公
7836(電話は火曜日)
係044・911・1256

専修人の新しい本

雇用と生活の転換
日本社会の構造変化を踏まえて
町田俊彦編

「雇用をめぐる新たな問題領域」をテーマに報告と意見交換が行われた2012年の「政策科学シンポジウム」(大学院経済学研究科主催)。本書はこの時の報告者を中心に、経済学部の「福祉と環境コース」に所属する7教員による共著。同コースのキーワードである「生活の質」を視点に、労働、社会政策、日本経済、財政など専門分野を

メソアメリカを知るための58章
井上幸孝編著
本書は、メソアメリカ(メキシコから中央にかけての文化圏)の先住民文化についての最新の入門書である。
第1~3部は、マヤやアステカのほか、オルメカ、サポテカなど、メソアメリカ各地の古代文明を時代・地域に沿って叙述し、第4、5部はこれら古代文明の文化的諸側面を取り上げる。続く第